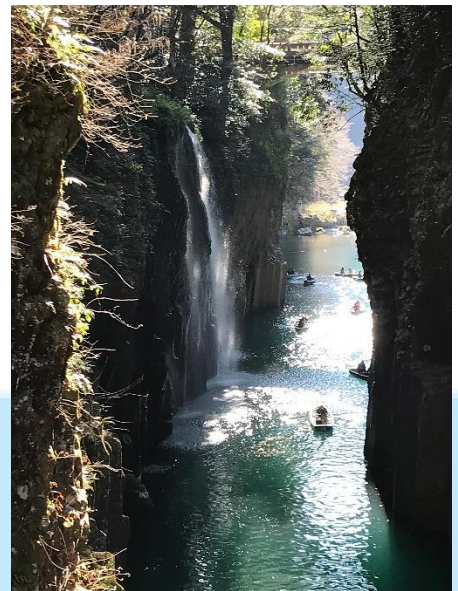


## Support for Woman Doctors ～私からあなたへ～

石原あやか 先生【大分県 36期】  
勤務先 高千穂町国民健康保険病院



大分36期卒の石原(旧姓:武原)あやかと申します。同期の宮崎出身の夫と卒後2年目に結婚し、今年の4月からは宮崎県の高千穂町国民健康保険病院で勤務しています。この度、リレーエッセイのお話をいただいたものの、プライベートで出産や育児の経験はまだなく、ワークライフバランスという意味ではあまり参考にはなりません…が、近況報告という形で書いてみようと思います。

私は県立病院で2年間の初期研修を終えた後、3-4年目は200床弱の地域中核病院での勤務、5-6年目は後期研修として総合診療・感染症領域を学び、7年目からまた地域医療の場に帰ってくるという義務年限を過ごしています。もともと総合診療に興味を持っていたこともあり、地域での勤務は、患者さんの背景に触れながら、total managementの一端を担うことができる環境で、やりがいを感じられています。大病院と異なり多職種が顔のみえる関係でつながっている現場は特に高齢患者さんの診療・ケアがスムーズになることは肌で感じました。一方で、地域では、自分の診療を批判的に見ることなく業務をこなすのが中心になってしまっており、大きな市中病院や大学病院での後期研修は自らの診療を見直す機会、視野が広がる機会となりました。後期研修を経て地域での勤務に戻ると、新たな視点が加わり、臨床研究への興味も強くなっています。また、この数年間の地域勤務や研修を通して多くの方に支えられたご恩があり、それを地域や後輩のために還元していかなければいけないという気持ちも新たにしています。

ただ、結婚協定の制度の中で異動をする場合、後期研修や他県への異動によって義務年限内医師人数が大きく変動するため、他の義務内の医師に迷惑をかけてしまう部分を少なからず感じています。自治医大出身の女性医師の数は着実に増えている中で、結婚協定による異動・産休・育休に対応できる体制が十分に整っているとは言えないのが現状で、後輩医師が希望するキャリアプランを実現できるようにするためにも、actionを起こしていく必要はあると考えています。

ここまで、ほとんど夫には触れませんでしたでしたが、人事を考慮いただき、4年目と7年目は同じ地域中核病院で勤務しています。最も距離の近い同僚としてお互いに診療の相談をすることも多く、非常にありがたい存在に感じています。また、家事も率先して取り組んでくれており、幸い育休への意気込みも十分です(笑)。これから、様々なライフイベントが起きてくることへの期待・不安はありますが、このリレーエッセイで、結婚・出産・育児をこなされながら、それぞれの素敵なキャリアを積まれてきた先輩方の体験や心の持ち様を読ませていただくと自然と勇気が湧いてきます。ワークライフバランスに悩んだ時には、自分が今何を大切に思うかを自問自答しながら、後悔のない道を選んでいければと思っています。以上、義務年限の途中経過報告です。

### 後輩医師・学生へ一言メッセージ

『実りある義務年限が送れるよう心からお祈りしています。  
いろんな場所でのいろんなご縁は大切だなあと感じます。』

「自治医大卒業生 女性医師支援 NEWS」では、読者の皆様からのご意見をお待ちいたしております。特集記事のテーマ、絵本やその他のコーナーについても、ご希望などあれば、是非お寄せください。  
連絡先:自治医科大学 地域医療推進課 卒後指導係  
E-mail : chisui@jichi.ac.jp